

インフルエンザ定点(小児科定点を含む)

インフルエンザ : 報告数は34件で、2月をピークとして減少しています。年齢のピークはありませんでしたが、半数の地区からの報告がない一方で宇城からの報告数が15件(定点あたり2.50)と半数を占めていました。

小児科定点
(全体傾向)

報告総数は3,688件(前月比1.55、前年同月比0.83)でした。ヘルパンギーナ(前月比10.0)、手足口病(同4.7)、感染性胃腸炎(同1.5)の増加に伴うものと思われます。昨年に比べて6月に増加したのは、RSウイルス感染症(前年同月比6.5、4件から26件)、流行性耳下腺炎(同3.1、119件から363件)、A群溶連菌咽頭炎(同1.5、304件から461件)、減少が目立つのは、手足口病(同0.1、1,206件から169件)でした。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 報告数は26件、4月からの報告数は20件代で横ばいです。有明(定点あたり1.20)、宇城(同1.00)を除けば、定点当たりの報告数は1件未満です。年齢は1歳に13件とピークがありますが2歳、4歳にも報告があります。冬を中心としてはいますが、年間を通して二桁の報告があり年少児のいる家庭では夏でも注意が必要でしょう。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数は82件(前月比1.0、前年比1.2)と、冬に報告が多く12月をピークとして春に減少し、4月からはほぼ同数の報告が続いています。ここ数年は夏に少ないという傾向が続いています。天草からの報告が13件(定点あたり3.25)と菊池16件(同3.20)が多いようです。1歳にピークがありますが、0歳と6歳を除く各年齢層からの報告が少数ずつあります。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数は461件(前月比2.0、前年比1.5)です。宇城の83件(定点あたり20.75)が多く、続いて菊池65件(同13.00)、熊本165件(同10.31)が多いようです。3～5歳を中心とした幅広い年齢層から報告があります。年間を通して三桁の報告が続いています。例年に比べて4月・5月が少なかったのですが、6月はここ数年では最大の報告数です。今後の推移に注意が必要と思われます。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数は1,566件(前月比1.5、前年比0.8)です。例年並みの推移で減少傾向にありますが、阿蘇・水俣を除く各地から定点当たり二桁以上の報告があります。菊池340件(定点あたり68.00)、有明298件(同59.60)、山鹿93件(同46.50)の報告が多いようです。ただ報告が少ないところでも、阿蘇19件(同9.50)、水俣18件(同9.00)であり発生は全県で続いていると考えられます。四歳以下の各年齢で三桁の報告でした。
5. 水痘 : 報告数は48件(前月比0.8、前年比0.8)と、昨年12月の108件に比べれば減少していますが、今年になってからの報告数は横ばいの状態です。阿蘇、八代からの報告はありません。二桁の報告があるのは、菊池15件(定点あたり3.00)と熊本15件(同0.94)ですが、これ以外の地区でも数件の報告があります。定点当たりの報告が1件を超えている地域は、菊池(定点あたり3.00)、水俣(同2.50)、山鹿(同1.50)、御船(同1.00)でした。1歳以上の年齢から4～9名の報告があります。印象としては減少していますが、報告数から見れば必ずしも減っているとは言えず、予防接種の再度の周知が必要と考えられます。
6. 手足口病 : 報告数は169件(前月比4.7、前年比0.1)と、昨年に比べれば、まだ少ないのですが、5月に比べれば増加しています。特に多いのは菊池で、45件(定点あたり9.00)で、次に天草25件(同6.25)でした。山鹿・阿蘇を除き県下から報告がありました。1歳を中心

としていますが、他の年齢でも報告がありました。

7. 伝染性紅斑 : 報告数は81件(前月比0.8、前年同月比1.1)です。山鹿から23件(定点当たり11.50)の報告が目立ちます。宇城17件(同4.25)、天草11件(同2.75)、菊池12件(同2.40)に多いようです。6か月未満を除く全年齢からの報告があります。
8. 突発性発疹 : 報告数は238件(先月比1.4、前年比1.3)と、やや増加しています。阿蘇と御船からの報告はなく、菊池が56件(定点当たり11.20)と多いようですが、県下から定点当たり3~4件のほぼ平均した報告でした。
9. 百日咳 : 報告はありませんでした。
10. ヘルパンギーナ : 報告数は429件(前月比10.0、前年比1.3)と今月になり急に増加しています。宇城75件(定点あたり18.75)、有明92件(同18.40)、菊池88件(同17.60)、天草62件(同15.50)に多いようです。山鹿・阿蘇・御船を除き定点あたり1以上の報告でした。推移は例年通りですので、今後増加するものと思われます。
11. 流行性耳下腺炎 : 報告数は363件(前月比1.5、前年比3.1)と、昨年から始まった流行が続いています。報告数の増減はありますが、いずれも高い水準です。定点当たりの報告が多いのは、八代が定点当たり17.25(報告数69件)、菊池、同16.40(同82件)、山鹿、同10.00(同20件)です。他地域でも阿蘇0件、水俣1件を除けば、定点当たり4~8の報告があり、ほぼ全県下で流行していると考えられます。今年もムンプスウイルスが分離されています。4件の0歳児からの報告がありますが、多くは1歳以上であり、VPD(ワクチンで予防可能な病気)であり行政にも協力して頂き予防接種啓発も必要と考えます。また合わせて難聴発生の有無も調査が必要かと考えます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告数 1 件(前月、前年同月とも報告はありません) 熊本からの報告です。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 54 件(前月比 0.9、前年同月 0.6)と漸減していますが、年齢別では行動範囲が広い働き盛りの 30~39 歳代をピークに 20~59 歳代に多発していますので、今後の蔓延が懸念されます。乳幼児層では減少しています。地区別では熊本 51 件、菊池 1 件、有明 2 件と熊本に集中しています。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 : 報告数は47件(前月比 1.0、前年比 0.9)で、前月比は同数、前年比は減少しています。男女別は、男性12件、女性35件で、女性に多く見られます。年齢別は、男性は15~64歳と幅広い年齢に見られ、女性は15~54歳に見られます。地域別は、熊本が31件、次いで有明6件、八代5件、御船、宇城各2件、菊池1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症:
報告数は16件(前月比 0.9、前年比 0.9)で、前月比、前年比共に減少しています。男女別は、男性9件、女性7件でした。年齢別は、男性は20~69歳に見られ、女性は20~59歳に見られます。地域別は、熊本9件、次いで八代4件、菊池、御船、宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数は10件(前月比 1.0、前年比 3.3)で、前月比は同数、前年比は増加しています。男女別は、男性6件、女性4件で、年齢別は、男性は20~64歳、女性は20~44歳で

した。地域別は、熊本8件、御船、八代各1件でした。

4. 淋菌感染症 : 報告数は9件(前月比 2.3、前年比 0.5)で、前月比は増加し、前年比は減少していません。男女別は、男性5件、女性4件でした。年齢別は、男性は25～44歳に見られ、女性は20～34歳に見られます。地域別は、熊本が6件、次いで御船2件、宇城1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 : 15件(前月比1.4、前年比0.9)の報告がありました。熊本3件、山鹿2件、八代3件、水俣1件、人吉5件、有明1件でした。年齢は1～4歳:2件、5～9歳:3件、25～29歳:1件、50～54歳:1件、70歳以上:8件でした。
2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 : 5件(前月比1.7、前年比 1.7)の報告がありました。熊本4件、有明1件でした。年齢は1～4歳:1件、25～29歳:1件、65～69歳:1件、70歳以上:2件でした。
3. 薬剤耐性緑膿菌感染症 : 報告はありませんでした。(前月比 - 、前年比 -)

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎 : 1件(前月比1.0、前年比 -)の報告がありました。熊本で、年齢は15～19歳:1件でした。
2. 無菌性髄膜炎 : 6件(前月比1.5、前年比1.5)の報告がありました。熊本5件、人吉1件でした。年齢は1～4歳:1件、20～24歳:1件、25～29歳:2件、30～34歳:1件、35～39歳:1件でした。
3. マイコプラズマ肺炎 : 25件(前月比1.7、前年比2.8)の報告がありました。熊本11件、菊地1件、八代1件、水俣5件、人吉2件、有明5件でした。年齢は1～4歳:6件、5～9歳:10件、10～14歳:6件、15～19歳:3件でした。
4. クラミジア肺炎 : 報告はありませんでした。(前月比 - 、前年比 -)
5. 感染性胃腸炎(ロタウイルス) : 2件(前月比0.3、前年比2.0)の報告がありました。熊本2件で、年齢は1～4歳:1件、5～9歳:1件でした。

届け出対象感染症

- 1類感染症 : 報告はありませんでした。
- 2類感染症 : 結核 : 28件
- 3類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 : 4件
- 4類感染症 : 日本紅斑熱 : 4件
レジオネラ症 : 3件
- 5類感染症 : カルバペネム耐性腸内細菌感染症 : 2件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症 : 1件
後天性免疫不全症候群 : 2件
侵襲性肺炎球菌感染症 : 2件
梅毒 : 1件